

2019年度 古事記読書会「弥栄(いやさか)の会」第4回 報告書

開催日 第4土曜日 2019年8月24日(土) 読書会 9時半～11時半

開催場所 中日本建設コンサルタント(株)東京支社 会議室(四ツ谷)

参加者 4名(全て会員)

内容

(1)参加者自己紹介

(2)本日の朗読の進め方(リーダー)

「第五集 勝佐備(かちさび)」です。さらに難解な部分が沢山ありますが、みんなで朗読しあうことで、「ああ、なんだ。こなことか!」と気づく瞬間が嬉しいです。一人では味わえない感動です。

(3)朗読

阿部國治著・栗山要編「新釈古事記伝 第五集 勝佐備」を車座になり全員で順番に輪読。

(4)読後感

○安河(やすのかは)とは、国・村・家等私達が帰属し、祖先から子孫へ引き継ぐものの本質を意味しているのではないかと考えました。なかなか哲学的な領域に入ってきたと感じています。自分の私利私欲だけを重んじ「やすのかは」が見えないと、本当の仕事をしたことにはならない、という教えは、社会基盤を扱う土木屋の使命と大いに重なりました。今回、人数が4人と少なく、2つの章について、戦前戦後や今日の国際情勢までも踏まえた意見交換が出来、まさに深く味わうことが出来たと思います。内容そのものに加え、このようなお話がフランクに出来ることも、弥栄の会の魅力だと思っています。

○「受け日」の中で、須佐之男命は、「天安河(あめのやすかは)」が見えました。天道、人道、普遍的なものをよりどころにして、身をささげて進むことを「天安河」といいます。現し国には、「土の安河」「国の安河」があるそうです。皆さんとの話の中で、技術者倫理に近いのではないかと意見がありました。そのとおりだと思います。幅広い心がなければ、安河を目にすることができないと思います。

○今回は、言葉の意味がかなり難しくなりました。原文も書き下し文も一行だけですが、阿部先生の解説は物語となって、数ページに亘ります。味わい尽くせないということでしょうか。高天原には「あめのやすのかは」があり、現し国には「つちのやすのかは」があって、これらの安河が見えると、なすべきことも見えてくる、ということは理解できますが、安河が村にも家にも須佐之男命の中にもある、というところで急に難しくなります。安河はある場所にあるだけではなくて、自らの中にある、ということなのですが、「命」や「本質的なこと」を指しているのでしょうか。また、安河と一つになることで、平らな気持ちになり、力が湧いてくるとくことですので、是非ともそのような心持になってみたいと思いました。常日頃、楽なことからはじめようと思いますし、難しいことは避けよう、できるだけ後を取っておこう、などと考えがちですので、安河が見えるようになりたいと思いました。

○天安河が理解できれば、己の天命、使命が見えてくるような気がしました。自分はこれからの人生をどう生きたいのか、問いかけながら読み進めたいと思いました。一人で読み進めていては辿り着けない境地です。皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

<2019年度の予定>

4月はお休み

5/25 終了

6/22 終了

7/27 参加者がいなかったので読書会はせずに、笹尾さん&須田の二人で四方山話をしました。

8/24 終了

9月はお休み

10月もお休み

11/23←次回予定

12月はお休み

1/25

2/22

3/28

次回予定

2019年11月23日(土)9時半～12時@中日本建設コンサルタント(株)東京支社 会議室

今回は、復習も兼ねて最初から「第五集 勝佐備(かちさび)」をじっくり味わいたいと思います。

連絡先：参加申込方法：開催日の1週間前までに、下記の必要事項を記入の上、メールにてお申し込みください。

【必要事項】所属支部、氏名、同伴者の有無(ご関係)、緊急連絡先(携帯)

申込先：reading-circle@womencivilengineers.com (担当：須田)

以上